

平成29年度 第1回生駒市スポーツ推進審議会会議録（要旨）

日時 平成29年8月22日（火）午後2時から

場所 生駒市役所401会議室

◎ 出席委員（敬称略）

池田誠也、浦井善宏、岡本 洋、佐伯 衛、下宇宿勲、城山ゆかり、城山英章、竹内幸子、辻本丈夫、西森禮子

（事務局）生涯学習部長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課長補佐、スポーツ振興課主査

内容

1. 審議会委員の交代について

2. 案件

（1）平成29年度スポーツ推進審議会事業計画（案）について

（2）平成29年度生駒市社会体育事業計画について

（3）平成28年度スポーツ推進計画に係る実績報告について

（4）平成29年度障がい者・障がい児スポーツ活動支援事業について

3. その他

<事務局>

●審議会委員の交代について説明

<会長>

案件の（1）「平成29年度生駒市スポーツ推進審議会事業計画（案）について」事務局から説明を。

<事務局>

●案件の（1）「平成29年度生駒市スポーツ推進審議会事業計画（案）について」の説明

<会長>

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見、ご質問は。

<委員>

〔質問なし〕

<会長>

案件の（2）「平成29年度 社会体育主要事業計画」について、事務局から説明を。

<事務局>

●「平成29年度 社会体育主要事業計画」等について説明。

<会長>

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見、ご質問は。

<委員>

〔質問なし〕

<会長>

続いて、案件（3）「生駒市スポーツ推進計画に係る実績報告について」事務局から説明を。

<事務局>

●「スポーツ推進計画に係る実績報告（平成28年度実績）」について説明。

<会長>

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見、ご質問は。

<委員>

[質問なし]

<会長>

続いて、案件（４）「障がい者・障がい児スポーツ活動支援事業について」事務局から説明を。

<事務局>

●「平成２９年度 障がい者・障がい児スポーツ活動支援事業」について説明。

○障がい者・障がい児スポーツ活動支援事業について

○障がい者・障がい児専用スポーツ用具の設置について

<会長>

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見、ご質問は。

<委員>

井出山屋内温水プールＴＡＣきらめきの障がい者を対象とした開放事業は大きな一歩である。

できれば月１回、全レーンの開放といかなくても、１レーンか２レーンでもいいので、プール開放の日などとすれば定着するのではないかな。

また、ＨＯＳ生駒北スポーツセンターの施設開放についても、非常に良いと思う。

ただ、施設を開放して自由に使ってもらいより、何か目的をもって事業に参加してもらうことが大事ではないか。障がいのある方は「自由にしなさい」と言われると困る方が多い。

また、例えば、「スポーツ吹矢をプレイする」「ランニングトラックを走る」だけで終わりとするのではなく、そこに行けば「吹矢の指導が受けられる」「ランニングの指導が受けられる」という受け皿を作り、次の段階でマラソン大会に出場するなど、次に繋げていくことが大事。

そういった継続したスポーツ活動を、総合型地域スポーツクラブが担う。そうすることで、総合型地域スポーツクラブの活動の幅も広がるのではないかな。

<委員>

市では中学生の障がい者を対象とした事業はないのか。

<事務局>

前回の温水プール開放事業は、幼児から大人までを対象としていましたが、生活支援センターを中心に周知させていただいたので、中学生には周知が行き届かなかった。

次回のＨＯＳ生駒北スポーツセンターと井出山屋内温水プールＴＡＣきらめきの施設開放については、市内小中学校の特別支援学級などにも周知する予定です。

<委員>

スポーツ振興課だけでなく、教育委員会としても力を入れた方が、もっと楽しくできるのではないかな。

<事務局>

もっと幅広くということですね。

学校の方は、プール等の授業はどうなっているのでしょうか。

<委員>

プールも深いと怖がる子もいるので、ベンチを沈めたり、各種の浮き輪を使って泳ぐ指導をする。テーマをもって指導すると、子どもたちは一生懸命取り組む。

体育施設開放については、体育館に行って何をするかを明白にし、楽しいことがありそうだなと思ってもらうことが必要。

その上で、スポーツ推進委員やボランティア等で、スポーツの指導ができる体制をつくるのが大事。

<委員>

今まで取り組みの少なかった施策であるため、目標をもって少しずつでも前進できればいい。

<委員>

他市での事例だが、障がい者向けに体育館でエアロビクスを行った。

参加された方々に楽しんでもらえてので、生駒市でも機会を作っていただければ協力できる。

<委員>

団塊の世代が定年を迎え教員が若返っている。

若い教員は経験が少ないので、障がい児が「目標をもって泳ぐ」「目標をもって走る」ための指導ができるように経験を積ませたい。そのためにも協力したい。そして、その経験を自分の学校に持ち帰って学生に指導ができればよいと思う。

<事務局>

こういった事業はマンパワーが必要です。

ボランティアも募集していますが、障がい者自らもボランティアに参加していただきたいと思っています。学校の先生にも是非とも協力していただきたい。

<会長>

スポーツ推進委員も全面的にご協力いただきたい。

<委員>

先程、「スポーツ推進計画に係る実績報告」について説明を受けたが事業がたくさんありおどろいた。他課とも連携を取りきめ細かく事業を展開されている。

障がい者・障がい児スポーツ活動支援事業については、はじめてのことなので、やってみて課題が出てこないと前に進まない。今後も更なる連携や繋がりが大切だと思う。

<会長>

市には、本日委員の皆さんから出た意見を参考に、本事業が前に進むようお願いしたい。

続いて、その他について事務局から説明を。

<事務局>

● 7月・8月の市民プール無料開放について説明

<会長>

その他、委員の皆様から何かありますか。

<委員>

総合型地域スポーツクラブについては、スポーツ振興くじ助成金の対象期間が終わってからの運営をどうするかが一つの課題である。

<事務局>

市としましても協力できることがあれば協力していきたいと考えています。

各クラブによって運営方法や課題も異なるため、今年度は市内総合型地域スポーツクラブ間での意見交換の場として、また、今以上にクラブ間の連携を図っていただけるような協議会を設立するための準備段階の会議を開催したいと考えています。

その会議でいただいた意見等を基に、今後は各クラブの特性を活かした周知啓発活動に繋ぐことができると考えています。

<会長>

その他、何かありますか。

<委員>

[特になし]

<会長>

なければこれで平成29年度 第1回スポーツ推進審議会の議事を終了いたします。